

今日の旧約聖書は、人間の中に、悪いものが住みつくことになった、墮落の物語の結末です。蛇にそそのかされて、禁断の実を食べてしまったエバとアダムは、それぞれ神様に責められた時、責任を転嫁していきます。私たち人間の心の中には、自分のことが一番大切で、そのためには、他の者に責任を転嫁してしまう、恐ろしい悪魔のようなものが存在しています。そして、人間の中に住み着いた悪いものを追い出すために、イエス様が来られた、ということ、今日の福音書は語っているのです。

今日の福音書の個所の小見出しは、「ベルゼブル論争」というタイトルがついています。ベルゼブルというのは、「悪霊の頭」とか「サタン」とか言われていますが、元々の意味は、「家を悪いかたちで支配する者」という意味です。つまり、人間の心の家を支配しているのが、このベルゼブルです。

私たちが今年読むマルコによる福音書では、今日までのところを見てみると、イエス様は、漁師をしているシモンとアンデレ、ヤコブとヨハネなどを弟子にするのと並行して、大勢の病人を、このペトロたちの家で癒していました。ベルゼブルを追い出しているのです。癒された人は、喜んでそれを人々に伝えたのですが、その話を聞いた側は、必ずしも良いこととしては受け取っていなかったようです。

イエス様について、悪い噂が起きました。「あの男は気が変になっている。」という噂です。これを聞いたイエス様の身内の人々は、自分たちの家族にこんな者がいたのでは、近所付き合いにも困ってしまう。早くやめさせて、家に連れ戻さなければ、そのうち大変なことになる、と思ったのでしょうか。

21節では、『身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。「あの男は気が変になっている」と言われたからである。』と書かれています。

「気が変になっている」というのは、「自分の存在から外へ出てしまう」という意味の言葉です。自分の外に出てしまう。われを忘れる。われを失う。恍惚状態になる。おかしくなってしまう。というイメージです。

そして、それは一人の人の精神状態だけでなく、身内の人々にとっては、自分たちの住んでいる家から外に出てしまった人間になる。家を捨てて家出した者、ということになり、それは身内の恥ということで、イエス様の身内が、噂を聞いて取り押さえに来たのも、わかるような気がします。

さて、イエス様が「家を飛び出し、気が変になっている」という批判は、その次に書かれている、エルサレムから下ってきた律法学者たちの批判で、一層強調されます。その批判は、「あの男はベルゼブルに取りつかれている」とか「悪霊の頭の方で悪霊を追い出している。」というものです。

「悪霊の頭の方で悪霊を追い出している。」という批判に対して、イエス様は、「どうして、サタンがサタンを追い出せよう。」と言われました。そして、『国が内輪で争えば、国は成り立たない。家が内輪で争えば、家は成り立たない。サタンが内輪もめすれば、滅んでしまう。』という風に、説明されます。「自分は決して、サタンの仲間ではないのだ。」と書かれているのです。

このあとで、イエス様は、ちょっとわかりにくいたとえを話されます。

『まず強い人を縛り上げなければ、だれもその人の家に押し入って、家財道具を奪い取ることはできない』という言葉です。「家に強盗に入ったら、強い人を縛り上げて、家財道具を盗め」というわけです。

この話をして、イエス様は何が言いたいのでしょうか？

私たちは、強盗ということは、よくないこと、と考えています。その根本には、モーセの十戒にある、「あなたは盗んではいけない」という掟があるからですが、ここでは、イエス様は、御自分が悪霊を追い出す活動のことを、家に押し入る強盗のたとえで話されているのです。

悪霊のベルゼブルが人間の心の家を支配しているので、その心の家にイエス様が強盗として押し入って、家を支配している悪霊のベルゼブル退治をしなければならないのだ、ということをお話しておられるのです。悪者に占拠されている家を奪還するために、強盗になって押し入ろうという説明です。

ここで言われているベルゼブル退治は、単なる病気を引き起こす悪霊のことだけではないと思います。ここでは、自分の殻に閉じこもって、サタンをずっと自分の中心に置いてしまっている、人間たちすべてを批判している話として、理解しなければなりません。それは、イエス様の活動の話を聞いて、それを取り押さえにやってきた身内たちに対する批判でもあるのです。

それは、具体的には、「身内の恥」などとイエス様を取り押さえようとやってくる人たちのように、私たちが、世間体などによって生活し、いつの間にか、自分たちの平安だけを求めて、イエス様を働かせまいとする心。自分がクリスチャンであることを隠そうとする心かもしれません。そこには、やはりベルゼブルという「家を支配する者」にとらわれてしまっている生きざまがあるのでしょうか。

そこから、解放されるためには、家を飛び出して活動している、イエス様を、救い主として受け入れ、自分の中にいるサタンを追い出していただきなさい、というのが、今日のメッセージだと思います。

わたしたちが、日曜ごとに御言葉に養われ、また聖餐式においては、キリストを私たちの中に受ける、ということ意識しますが、本当に、私たちの中心を、自分勝手なベルゼブルに支配させておかないで、中心にキリストを迎え入れる生活にしていきたいと思います。